

産業安全衛生宮城大会が開催されました

令和元年7月4日(木)「令和元年度産業安全衛生宮城大会」がトークネットホール仙台(仙台市民会館)において開催され、828名の方々が参加されました。

「産業安全衛生宮城大会」(主唱:宮城労働局、主催:(公社)宮城労働基準協会ほか労働災害防止関係団体等)は、広く安全意識の高揚を図ることを目的とした「全国安全週間」の時期に合わせて開催し、労働災害ゼロを目指し、一層の取組を誓う場です。



今年は、県内企業の経営者・管理者、産業安全・労働衛生スタッフ、産業保健関係者など職場の安全衛生に携わる関係者、一般の方々から、昨年を大きく上回る828名の方々が参加されました。

主催者開会挨拶、主唱者挨拶(代田雅彦宮城労働局長)、祝辞(宮城県知事(代読))の後、安全衛生管理に功績のあった企業及び個人に対する表彰が行われました。



主唱者挨拶を行う代田局長

次に、大会宣言(案)が参加者全員により確認され、「『人命尊重』の基本理念を深く認識し、労働災害による犠牲をこれ以上出さない」という決意を新たにし、全ての関係者が一丸となり、各種労働災害防止対策に全力を挙げて取り組むこと」の宣言がありました。



続いて、石田直哉労働基準部長による「宮城県の労働災害の状況について」の説明の後、(株)ネクスコ・メンテナンス東北の星雅道上席安全指導役から、「特殊な作業環境に工夫と凝らした安全管理」と題し、一般の交通安全にも配慮した安全衛生管理活動に係る好事例の報告がありました。

最後に、イチロー氏の活躍を支え、田中将大氏を育成した奥村幸治氏(NPO法人ベースボールスピリッツ理事長)による講演があり、意識の持ち方で夢を実現できること、地道な努力が大切であること、ルーティンによる自己管理が重要であることなど、労働安全衛生管理にも共通する事柄を、様々なエピソードを交えながら、熱くまた愉快地に説かれていました。



熱く、愉快地に説かれる奥村幸治氏